

本末顛倒

財団法人 いも類振興会

理事長 生天目 健 蔵

世の中を複雑化している現象に、本末顛倒がある。殊に、行政の不手際が、これに重なって、一層拍車をかけることにしている。

路上駐車で困った取締当局は、罰金3万円を20万円に引上げて、取締りを強化するという。そもそも、駐車するだけの空地を持たないものに、車の使用を許すところに問題がある。

たとえ、使用承認の空地所有者の証明があっても、申請のとき、いちいちチェックして置けば、路上駐車にハマだす危険はないわけである。本質的には、マイカーを置くところもない個人が、車を買うということがおかしい。それでも、車を持ちたいと思う者は、地方に転居すればいい。

同じような現象は、無数にある。もうわが国では、発電所用のダムを設置することが困難になってきた。それにも拘わらず、都市と云わず、リゾート地域と云わず、50階建、36階建のマンションが林立している。そうして、電気が足りない、ダムがつかれない、原子力発電だと騒いでいる。先祖伝来、墳墓の地を追いたてられる人達の身にもなってみよ。都会の人間の安楽のために、犠牲になって、郷里を追いたてられる山村の悲劇である。

電気がなければ、生活ができないことがわかっていながら、巨大マンション・巨大ビルの建設を許可しておいて、電気が足りないでは、本末顛倒の話である。

このことは、国際的にも云えることである。米国は、米をつくらなければ、農民の生活がなりたたないのではない。米を買えという押付けに困っている日本に、コメ解放を求めるよりも、必要のないアメリカで、米の転換策を講ずればいいのであって、これも本末顛倒の話である。

湾岸戦争も、よく考えてみると、石油戦争の一変形である。石油の産出のない、あっても極くわずかの産出しかない諸国が、石油製品100%の生活をしているところに問題がある。殊に、わが国の如き、国民の半数に近い人間がマイカーの免許を持っている。原動力となるガソリンは、どこから持ってくるかと問いただしたい。

世界のどこからでも、必要な物質を輸入することに困難を感じる必要のない経済大国になったことに異存はない。しかし、後進国は前進している。先進文明国は、一步も二歩も前を歩いている。

人手不足、労力不足は、ますます、わが国の産業を圧迫している。

この際だから大局から検討して、秩序よく、効率よく、行政を運用して、国民の迷惑にならないような、また、ムダな繰り返し等をしないように、筋金を入れる必要があるのではないか。

財・官・民とも、意識を新たにして、ここで、わが国の強固を築くべきではないか。